

第8回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会について（報告）

1 日 時 令和2年11月13日（金） 午後2時から午後4時まで

2 場 所 日立市役所 503・504号会議室

3 出席者

(1) 委員 19名 （欠席：富田委員、内山委員）

4 内容

(1) 委員長挨拶

- ・1月から在り方検討委員会が始まり、新型コロナウイルス感染症の影響での中断をはさみ、7月から再開したわけであるが、また第3波の恐れが出てきており、これ以上の中断があると難しい状況になってくるかなというところである。
- ・今回時間の無い中で中間報告骨子案をまとめてもらったが、あくまでも骨子案であるので、ここから議論をふくらませてほしい。まとめる過程でニュアンスの変わっているところもあるかもしれないので、是非積極的に意見をいただきたい。

(2) 第7回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会の議事要旨(案)の確認について
第7回の議事要旨（案）について、訂正がある場合には、11月20日（金）までに事務局に連絡をし、訂正のうえ、日立市ホームページに公開することを確認した。

(3) 中間報告骨子案について

資料2に基づき、事務局から中間報告骨子案について説明を行った。

○委員

- ・1ページのコミュニティ活動のあゆみについては異論はないが、2ページ、3ページの内容というのは他県や他市町村に紹介するときの問題があると思う。コミュニティ、コミュニティとずっと出ているが、ここに推進会と入っていないのは、どういう理由なのか。コミュニティの位置付けや定義付けなど、コミュニティという言い方、言葉では、他の市町村や他県には、何のことだか分からないのではないか。これを製本化したときに、やっぱりコミュニティという言葉じゃなくて、推進会という言葉はどうして入れなかったのか、伺いたい。

○事務局

- ・これまでの経過を申し上げる。日立市の場合には、コミュニティというと23の小学校区を単位にしたコミュニティのことをコミュニティと位置付けている。そのため、今議論しているのは、その単会コミュニティのことを議論しているということになる。コミュニティ推進会ということで委員が指しているのは、23のコミュニティの組織の方を指しているのではないか。

○委員

- ・これを冊子にした場合、他の市町村には、読んだときに少し分かりにくくなって

しまう。それで、そういった配慮として、単会コミュニティというような言葉を入れるのか、それとも、別に注釈みたいに付けるのか、そのあたりが心配ということである。

○事務局

- ・コミュニティという用語だけではなく、その他にもちょっと分かりづらいような用語が出てくるかと思う。それについては、最終報告の後ろの方に用語解説集をつけていきたいと考えている。

○委員長

- ・私としても、最後に言おうかと思っていたが、これはあくまでまだ中間報告なので、最終的な報告ではもう少しブラッシュアップなり、盛り込むものがあるというのが一点、もうひとつは、前回の議論でもあったとおり、やはりコミュニティとは何か、そもそも、日立市において今後コミュニティをどういうものだと考えていくのかというような議論は、恐らくこの委員会で、今後必要になってくる。それを踏まえて、出来れば将来的には、そのコミュニティ憲章みたいなものを定めるようなことも、この委員会で憲章そのものを議論するかどうかはまた別問題としてみても、今後、日立市と言えばコミュニティはこういうものということが誰にでも分かるような形の、憲章を定めるような、そういった方向性の議論もできればという風に考えていた。他に質問はあるか。

○委員

- ・先程の委員が話されたことはもっともなことだと思うが、この日立市のコミュニティ活動の在り方中間報告については、日立市の住民に対してどうあるべきかと、我々に対してどうあるべきかというものであって、他県に披瀝（ひれき）するものではないので、そのあたりは、他県などには関係ないと思う。
- ・前に平成23年のときに行ったあり方検討委員会では、今行っている業務の内容を見直すということでやっていたが、今回はコミュニティそのものを見直すということでやっているの、最初にこの中間報告の前段にやはり、委員が話していたように、日立市のコミュニティ組織のコミュニティの活動、組織なりの定義というものをきちんと前に出して、日立市のコミュニティ活動はこういうもの、町内会をベースにしたのか、それとも、学区ごとにあるのかなどを理解する上で最初に出して、今後コミュニティはこのような動きをする、3つの項目に持っていきたいというような項目に、骨子案を持っていった方がいいのかなと思う。初めて見る方もいると思うので、今、事務局が言ったように、日立市のコミュニティはこういう組織とみんな分かっているけれども、きちんとした定義が書かれていないので、そのあたりを書いた方がいいと思う。
- ・それから、全項を読んでもみると、非常に抽象的なものが多く、これから具体的に変わってくると思うが、4ページに市民意識の醸成というのはあるが、例えば、向

こう三軒両隣の復活などというのは、昔からの言葉が書いてあるが、むしろ地域が支える福祉という項目をひとつ取りあげてもいいのではないかと思う。そのあたりについて、これからの検討をお願いしたい。コミュニティの定義がきちんと理解されるように、最初に入れた方がいいのかなと思う。

○委員長

・事務局、今の意見に対していかがか。

○事務局

・先程、一次のあり方検討委員会の話が出たが、このコミュニティ活動とは何かというのは、一次のときの始めに説明を入れているというのもあるので、編成の仕方だと思うが、それなりのリード文で、そのあたりはフォローしていきたいと思っている。

○委員

・基本的な考え方ところで、市民に分かりやすい組織となるため、スリム化を図りという文言が最初に出てくるが、このスリム化というのは何なのか、市の組織のスリム化なのか。それとも、単会のことなのか、どこを指しているのか分からない。

○事務局

・こちらの検討委員会の委員から、コミュニティと交流センターの関係、違いが分かりづらいという意見があり、また、市民の意見を募集したときにも、同様の意見があった。このスリム化というのは、現在、コミュニティ組織と、交流センターの維持・管理、運営をしている交流センターの運営委員会という2つの組織があることで、分かりづらいという意見が出ていたので、その一本化ということで、こちらの取組の1新たな組織づくりの②に記載させていただいているが、コミュニティと交流センターの運営委員会の一元化を図り、スリム化を図っていきたいというイメージである。

○委員長

・確認するが、これはあくまで中間報告で、市長にお見せするということであるが、中間報告の段階で、市民の方々に見ていただくということはあるか。

○事務局

・今のところ、考えていない。

○委員長

・あくまで、市長にお伝えする中間報告という形で、市民の方にお出しするのは、最終的なものということでいいか。

○事務局

・そのとおりである。

○委員

- ・今の委員の質問に関連するが、この中にスリム化を図りや透明性を高める、地域課題を解決できる体制を強化する、また、4ページには、隣近所の顔が見える関係性を再構築するなどいろいろな言葉が出てくる。これは中間報告なので、それはそれでいいが、それらの文言の具体的なものが裏にないといけない。それともこれから我々が決めていくのかどうか分からないが、きちんとやっぱりそういうものが、スリム化というのをどう図っていくのかとか、関係性をどう作っていくのかとか、そういうものが、この資料、提言をする裏にないといけないので、そこまでやっていかないといけないと思うが、そのあたりは事務局どうなのか。

○事務局

- ・冒頭でも申し上げたとおり、本日示しているのは、あくまで骨子案である。骨子案であるので、3月の最終報告に向けて、具体的に取組内容を委員の皆さんの間で議論して深めていただきたいと考えている。

○委員長

- ・この資料は、市長に中間報告する資料であると同時に、これから半年間かけて我々が議論を深めていく項目はこういうものであると確認するものということである。

○副委員長

- ・まとめ方について、基本的な考え方というのは、方針的なことが書いてあり、それに対する具体的なことというのは、その下で書いてある取組がその方針に対する取組内容ということで、今後検討してほしいことというようなまとめ方をしているので、その基本的な考え方の方針的なことと、それに沿った取組がそれでいいのかということを検討する会議なのかと思う。

○事務局

- ・詳細について資料の説明をすると、まず検討のテーマとして、3つの柱があるということで、2ページを見てもらうと、まず1本目が新たな時代にふさわしいコミュニティ組織ということで、これに対する基本的な考え方が3項目に整理してある。そして、1番から5番までの、新たな組織づくりからコミュニティ再編、これが施策の方向性である。その施策ごとの主な取組が①から③ということである。

○委員長

- ・前回、日立市の総合計画のコピーを配付し、政策レベル、施策レベル、事業レベルというレベルごとにイメージを示したそういう形である。
- ・次第の5意見交換に進みたいと思うが、今回示している中間報告の骨子案を見てもらって、例えばこういう項目も付け加えた方がいいであったりとか、あるいはこれが漏れているであったりとか、様々な意見があるかと思うので、そういった意見を是非出してもらいたいと思う。あくまで繰り返しになるが、こちらは中間報告の骨子案であるので、今日の皆さんの議論、皆さんからの意見を踏まえて、

それを併せて市長に中間報告という形で報告しようと思っている。自由な議論をお願いしたい。

○委員

- ・ 1 ページのコミュニティ活動のあゆみの所を見ると、推進協議会についてのあゆみということで書かれてきているのではないか、単会活動というよりは推進協議会の経緯という形になっているような気がする。次ページからはコミュニティの単会の話である。どう考えたらいいのか。

○委員長

- ・ つまり、1 ページに書かれた年表のコミュニティというものと、2 ページ以降のコミュニティの整合性の部分ということである。事務局いかがか。

○委員

- ・ 単会コミュニティというと、コミュニティ推進会より広いという意味か。何か分からない。

○委員

- ・ 1 ページのコミュニティ活動のあゆみの年表については、単会というコミュニティ推進会全体の年表である。それが集まったものが、コミュニティ推進協議会なので、すでにこの年表が単会のコミュニティ活動の年表という捉え方でいいと思う。単会それぞれの、単会23学区のコミュニティの活動がこういう年表でやっていますという形である。コミュニティ推進会というのが学区ごとに出来ていると事務局で話していたが、推進会のようなコミュニティの名前にまだ変わっていないところもある。全体としてのコミュニティの推進会という名前と、推進会を使っていない単会、23学区あるコミュニティの中で、3つだけ名前が変わっていないところがある。名前は違うが、コミュニティの組織、コミュニティの在り方は全部日立市内のやり方は同じである。したがって、コミュニティ推進会にするとその3学区はカウントされなくなる。コミュニティ推進会の活動のあゆみとすれば、人によっては分かりやすいかもしれないが、コミュニティの活動のあゆみイコール日立市のコミュニティ推進会である。

○委員長

- ・ 推進会と推進協議会で違う。推進協議会というのは単会が集まって作っているものである。

○副委員長

- ・ 私は今、コミュニティ推進協議会の会長をやっているが、その23学区に会長がいて、地域活動の一番の先端の住民との接触する活動は23学区の単会が行っている。その会長が集まって出来ているのが、日立市コミュニティ推進協議会ということで、そこで行っている活動の情報交換とか市からのサービスの平準化とか、そのことを推進協議会では審議するが、具体的な活動、23学区の市民との活動

は23学区の単会が行っているということで、イコール推進協議会イコール各単会どちらも指しているということだと思います。先程の委員がこだわっているのは、日立市コミュニティ推進協議会とコミュニティ単会というのは別物だという捉え方をしているというところが、我々とは違うと思う。

○委員

- ・今、私たち自身訳が分からなくなっているようなところがあって、日立のコミュニティの組織なり活動というのを、どういうことと持っていくのか、そこをまず固めておく必要があるかもしれない。今ここで言っているのは単会のことを言っているわけではなくて、日立の中で行政とともに協働のいろいろな事業をやっていこうとする、行政があり一方地域にはコミュニティという組織があるということなので、それを単会それぞれが自分たちの色があるものでやっていいのではないかということであり、日立の全体のコミュニティなるものをどういうふうに定義してスタートしていくのかということではないか、あまり単会とかそういうものではないような気がする。そうしないと、単会を言い始めるとカラーがあっていろいろなので、日立の中でのコミュニティ組織と私たちが言っている市民とともに進めようとしている行政ではないその組織が、日立市全部に備わっているというようなことがちゃんと言えないといけないかなと思う。

○委員長

- ・実際そのとおりだと思っていて、今ここの委員の中でもコミュニティという言葉に関して、完全な一致を見ていないという部分が実はすごく重要だと思っている。だからこそ我々は、先ほどから議論にもあるが、2ページにある取組のはじめ、新たな組織づくりの①にコミュニティの定義付けということがまさに掲げられている。つまり、単会イコールコミュニティということだけでないということである。それは後段にも出てくるが、それこそコミュニティの多様性、自治会・町内会もあるし、NPOもあるし、様々な団体を含めていわゆる官ではない民の様々な取組としてのコミュニティといったようなものも当然中には入ってくるかと思う。そういったこともおそらく、やはりコミュニティの定義みたいなものは今ここですぐに決まらないと思うので、半年間かけてやはり議論させていただくというのが一点と、もうひとつはそれを踏まえたうえで、ちゃんとしたここでは定義をして、さらには用語集的なところもあっていい気がする。最終報告書にはやはり単会とはこういうもの、コミュニティ推進協議会はこういうものという形のものをはっきりさせて、イメージを固めるという議論も今後していくということで事務局どうか。

○事務局

- ・市民活動の始まりについて、日立らしいコミュニティ活動を、これまで長い歴史の中で、日立は45年前から小学校区単位で活動している。それも「自分の地域

は自分の創意と努力でつくり上げる」という基本理念の基に、行政と協働で市民参加のまちづくりを進めてきたというのが日立方式である。2回目の委員会で、地域運営協議会という話をさせてもらったが、だいたい1990年代の頃から、自治会・町内会では立ち行かなくなり、小学校区単位の組織化をしてコミュニティ活動をしましょうというのが国の推奨している動きである。それを日立市は、45年前から小学校区単位でそれぞれのコミュニティ活動をしているということが日立市の特徴であるので、そのあたりを踏まえながら定義付けをしていただきたいと思う。

○委員長

- ・このような形で是非、忌憚のない意見をお願いしたい。

○委員

- ・私は前回から最初に配っていただいたコミュニティ活動ハンドブック、これを机の上において、こちらを見ながら、話し合いに参加しているが、これに当時の定義も書かれてはいる。現状とは状況が変わっているの、定義も新たにまた変わるべきかなと思うが、そういったものを見ていくためにも、このハンドブック、私は非常にいい参考になっている。
- ・また、内容について、2ページ、新たな時代にふさわしいコミュニティ組織の方、私も基本的な考え方とリンクしているような取組だなというのが、説明を受けてよく分かったが、地域コーディネーター、4の③これも確かに重要な位置付けだと思ったが、この書かれている文言で一つ気になったのが、コミュニティ等の意見を吸い上げ、地域課題解決に向けた調整を行う役割という形で書かれているが、おそらくこのコーディネーターというイメージは経験値が高い方とか、学識経験の豊かな方だと思うが、私としては、ここはそういった方でもいいが、プラスでアイデアや発想が豊かな人などがここは入らないと、これからのコミュニティにはちょっともったいないのかなと、若い世代などもここにはイメージ的に入っていく方がよい。文言で言うと、調整を行う役割というのではなく、助言も入ってもいいのではないかと、調整・助言、ここまで踏み込んでいくようなコーディネーターがいてもいいのかなと私はイメージさせてもらった。

○委員長

- ・まだこの地域コーディネーターがどんな人物像かということは当然決まっていないが、一つの考え方として、それこそ若い、新しい意欲のある方々が入ってもいいかもしれないし、少なくとも調整だけではなくて助言という言葉を中心に、中間報告の段階でも付け加えることは全く問題ないかと思う。もし差し支えなければ、地域課題解決に向けた調整・助言を行う役割という形で中間報告にしたいと思う。

○委員

- ・今の地域コーディネーターというところで、私どもでもコーディネーターというのは結構いるので、この地域コーディネーターという名称が独り歩きをしてしまうという可能性があるのですが、例えば仮称など、例えばの例というところがあった方がいい。きっとこれが仮定的に言われてしまうと、うちでもボランティアコーディネーターとか生活支援コーディネーターとか、コーディネーターという色々な職種の中でもあるので、そこだけ付記していただければありがたい。

○委員長

- ・(仮)にしておくことにする。その方が確かに無難である。

○副委員長

- ・2ページの自治会・町内会との関係性ということについて、負担感のない緩やかなネットワークづくりと表現しているが、これは少し抽象的すぎるかなと思う。今、町内会の加入率が非常に低いということが、最初に一つの大きな課題だということでこの在り方検討委員会で取り組んでいる。ここの自治会・町内会との関係性はすごく重要な項目になるので、そのあたりの取組についてもう少し詳細な内容が必要かと思う。

○委員長

- ・もちろん、この自治会・町内会との関係性、あるいは自治会・町内会の在り方も含めて、これはこの委員会において中心議題の一つであったわけであるが、今のところ二つの文言となっている。例えばこれに付け加えろとか、もしかしたら修正するような、そういったことがあってもいいかと思う。この自治会・町内会についてはいかがか。

○委員

- ・この言い方は私の言い方によく似ているが、負担感がない緩やかなというか、例えば何人その自治会や町内会から人に出てもらって、そこに役目を付けてという時代ではもうなくなって、ただでも抜けていきたいという人たちがいる中で、自分たちもそこにいて上手に負担をなくしながらもそこに自治会・町内会を作ってもらって、そこで一緒にやっているコミュニティの単会は負担をかけないようにしながらも、やっぱり情報を提供したり、情報を吸い上げたりというような感じの緩やかな関係を結んでおく必要があるのではないかと思っている。あまり役目をそこに付けるわけではないが、やっぱり私たちのことは伝えたい、向こうの状況ももらいたいということなので、何とか何人を出してください、こんな役目がありますというやり方ではないのではないかと私は思っている。

○委員

- ・今の話、説明があれば何となく分かるが、ここに出ている文言というのは大抵ほわっとしたもので、具体的にこれから詳細についてはやっていくということか。

○委員長

- ・そのとおりである。

○委員

- ・それが出ないと、例えば市報の配り方などもう少し具体的に出してほしいと思っている。もうひとつ、今のページで行くと言葉として新たな組織づくりのところで組織の透明性確保として、会長等の多選禁止、定年制と書いてあるが、これはかなり難しい問題である。多選禁止というと、抵抗のあるところも出てくる。それが本当に悪いのか、例えば私は日高で30何年やっているが、会長一人は1年だけだったが、あとは二人の会長、つまり一人10年以上やっている。全然問題はなかった。非常にいい会長、尊敬される会長で、それがどうして悪いのか、確かにおかしいと思うところもあるが、単会ごとにそれぞれ特徴ある活動をして進めましょうと片方と言って、一律に人柄も見ないで、人柄を見るということも変だが、これを文言として入れるのは違うのではないか。いつまでもという人もいるかもしれないし、気持ちは分かるが、その選び方の問題、本当に地域の、そしてコミュニティの人達の総意で選んでいるのかという問題があるので、そのところをちゃんと見ていかなきゃならないし、定年制と言っても、例えば75とか80と決めたとしても、我々コミュニティはそういう人たちでもっているようなものであるので、この定年制というのも単に言葉で定義付けするのはどうかなと思う。ただ問題をはらんでいるところもあるので、そのあたりの表現を考えてほしいと思う。

○委員

- ・そもそもその会長等の多選禁止、定年制という言葉をごここに入れるのはまずいと思う。それなりに各単会で、民主的にいろいろなことを決めているという以上、これは削った方がいいと思う。透明性と先ほど言ったような、単会の住民の総意とかそういうのを重視するというような言葉、文言ならいいが、これは少しまずいかなと思う。

○委員長

- ・まず、③の透明性の確保という部分に関してはおそらく異論はないかと思うが、それをどのように担保するか、どのようにという部分については相当議論が必要になってくると思う。やはり、今の段階でこれはかなり具体的な話であり、多選禁止とか定年制、それを中間報告に盛り込むのは少しまだ早いというか、他にも選択肢は当然あり得る話なので、ここでは組織の透明性の確保までにして、括弧は取った方がいいかもしれない。
- ・とりあえずここでは中間報告なので、会長多選禁止、定年制は一旦取ることとする。ただ、このあたりについては、アンケートなどでもこういった意見があるのは事実なので、是非半年間かけてまた議論いただきたい。

○委員

- ・ 2 ページの5 コミュニティ再編ということが入っているが、①が学校再編、②が身近な相談窓口としての交流センター、③に学校再編と書いてあるので、連携するように①を身近な相談窓口にして、②、③を学校再編という順番にした方が関連性があるのではないかと思う。肉付けの時はまた話があると思うが、どういう順番でこれは並んでいるのか。

○委員長

- ・ あまり順番は意味していないと思うが、事務局いかがか。

○事務局

- ・ 今回の2次の報告書については、10年後、20年後を見据えている。今回、学校再編の方は20年後には7つの中学校区にするという計画を立てているが、そうするとそういう動きに合わせてコミュニティの方も各学区の人口規模などを勘案しながら、検討しなければいけない。その時に、将来的に20年後ぐらいにもし中学校区に合わせるとなった場合には、各中学校区、7つの学区ごとの連携を図る必要が出てくる。その時に、先ほども地域コーディネーターというのが出ていたが、そういう方を活用しながら連携強化を図っていかなければならないのではないかという意味合いで最後に持ってきているので、一番と若干意味合いが違う。

○委員長

- ・ ②はどうか、②は時間軸的にいうと身近な相談窓口としての交流センターの機能維持というまさに今の話なので、これを①に持ってくることに私は違和感がなかったが、ここはいかがか。

○事務局

- ・ ここで論点になっているのは、コミュニティの再編という部分になっているので、そういう意味合いから交流センターとはまた検討の視点が違うので、②に持ってきている。

○委員

- ・ 今のところ、コミュニティの再編という大きな表題がついているのに、交流センターの機能維持というのは、むしろその活動なり機能のことを言っているのに、コミュニティ再編というのは今後、最後に言われたように、小中学校が統合する、再編されることによって変わることがあるときは再編についてもう一度考える必要があるというぐらいの書き方でいいのかなと思っていて、今からここに大きくコミュニティの再編と出す必要はない、
- ・ 今再編しようとしてはいるが、改めて書く必要はあるのか。今のコミュニティを新しくしようとしているうえに、もう一度ここで再編が出る、そのやり方は正しいのか。学校再編に伴い、再度コミュニティ再編について検討する必要があるということなら分かるが、機能とともに再編と書いてあると違和感がある、どう整

理したらいいのか。

○委員

- ・今ここにコミュニティの再編を大きく取組の項目として出す必要はないと思う。学校の再編がきちんと決まって、コミュニティがそこでどういう関わりをしているか決まったら見直さなければならないということで、この段階ではコミュニティの再編は大きな項目ではなく、その他の項目ぐらいでいいのではないか。
- ・それからもう一点、2ページの自治会・町内会との関係性、2つぐらいの項目で済ませてはよくない。コミュニティの組織というのは、町内住民が基本なので、コミュニティの基本は人と人とのつながり、つまりその住民との関係性が深まることによって、コミュニティがきちんとなる。その自治会・町内会との関係性を2つの項目ぐらいで抽象的な文言にするのではなく、もう少ししっかりしたものを出不さいといけない。それがコミュニティの組織に非常に大きく影響しているということを理解すると、この自治会・町内会はもう少し項目を増やしてもいいかなと思う。

○副委員長

- ・今の委員の意見と私も同じで、私も何回か言ったことがあるが、再編については学校の方の再編というのを優先的にやっていて、我々のコミュニティは今小学校区単位でやっているの、特に今は現状維持のままずっと、それも10年後、20年後になるということで、コミュニティ再編というのはまだ時期ではないと思う。自治会・町内会については先ほども言ったが、自治会・町内会に代わるものを検討すべきかどうかとか、自治会・町内会を活性化するとか、両面取り入れるというような内容の提案ができないのかなと思う。

○委員

- ・コミュニティ再編が無くなると②が無くなるというのはちょっともったいないので、②は1の新たな組織づくりの方に入れてもいいのではないか。

○委員長

- ・つまり、身近な相談窓口としての交流センターの機能維持ということは残したいということである。これはどこかに入れておきたい。

○委員

- ・そこに関して、私も身近な相談窓口としての交流センターはあった方がいいと思ったので、Ⅲ市民意識の醸成の3顔が見える関係づくりというところに入れる方が、顔が見える相談窓口ということにもなるので、スムーズかなと思う。

○委員長

- ・今、非常に具体的なアイデアを出してもらったが、まず一つ一つ整理していく。2ページの5コミュニティ再編の②として身近な相談窓口として交流センターの機能維持というのがあるが、こちらを4ページの3顔が見える関係づくりの中に

新たに④として入れるということしたい。問題はこの2ページの5コミュニティの再編である。これを現段階で項目として残すかどうかであるが、今のところ委員の皆さんからは、現段階でこれを再編とってしまうのは時期尚早ではないかという意見が多かったと思うが、他にはいかがか。

○委員

- ・このコミュニティ再編というのを、コミュニティの再編ではなくて役目の再編みたいな形、役目の見直しみたいな形にするとこも残ると思う。前に言ったと思うが、学校とかそういうことではなくて、身近な相談窓口の交流センターで、交流センターの中を市役所の出張所にして、市役所が交流センターに出てきて仕事をするとか、いろいろな要望とかひとつの窓口が出来ればいいなということをやったことがあるが、コミュニティの仕事の再編、ここは無くなるとどうか、中学校や小学校が無くなるとどうか、そういう問題であるが、そうではなくてコミュニティの方の新たな役目の再編みたいな形でやると違うのかなと思う。

○委員長

- ・今のコミュニティ再編という文言から少し違う方がいいのではということである。

○委員

- ・確かにコミュニティの再編イコール学校再編ではないということがいいと思うが、学校再編に関しては10年後、20年後の話ということで束ねられていると思うが、具体的に言うと中小路、仲町、宮田小の中で動きがあり、実は保護者の方から来年入学するときにもう宮田小一本になるというようなイメージがあった時に、小学校を宮田小に決めているという保護者の方達もいるので、やっぱりこれはちょっと具体的な話になって、ただそのコミュニティイコール学校再編ではないが、学校再編の①と③はどこかに残して、项目的には見据えたものでいくというところを残してほしい。現実的には、保護者の方はかなり危機感があるみたいなので、そういう意味ではコミュニティの中で、例えば宮田小になった時に、中小路に住んでいる人は中小路のコミュニティの関係性があるけれども、学校が一本になったらという話まで聞いた。コミュニティと学校再編というのはやっぱりコミュニティがどう生き残っていくかということにも入っていくと思うので、どこかに入れておいた方がいいのかなと思う。

○委員長

- ・整理させてもらおうと、今皆さんの意見の中で多かったのは、まずコミュニティ再編という文言の強さにあると思う。そうすると、あたかもコミュニティの統廃合ありきみたいな形に見えてしまう。おそらくこの段階でそういった文言にするのは時期尚早だということだと思う。
- ・一方で先程の委員が話していたとおり、現実問題として学校再編は確かにあり計画はされているわけだし、おそらく10年、20年ということで実施されていく

わけで、それを全く無視してコミュニティの在り方検討というのは中々しにくいだろうと思われる。ということは、何らかの形で特に①のあたり、学校再編とコミュニティ再編がイコールというイメージがそもそもおかしい話であって、①の文言は残すべきだと思う。そうすると、私の案では5のタイトルをそれぞれコミュニティの連携強化などにしてはどうか、つまり、学校再編があるかもしれないけれど、それによってコミュニティが再編されるのではなくて、一つの学校で二つのコミュニティということが将来的にある、ということは今以上にコミュニティ間の連携を強化していくことを模索していこうではないかとの検討という形でタイトルにしてはどうかと思ったが、いかがか。

○委員

- ・新たな組織づくりの中に、今後こういうこともあるというような書き方ではまずいいのか。1 新たな組織づくりの中に④、⑤と出てくるのかもしれないが、その中に今後学校再編や人口の増減についてはコミュニティの在り方の検討が必要というものをに入れておくというのはどうか。

○委員長

- ・つまり、今の委員の意見は、取組の5本のうちの一つではなくて、5は無くして①の部分は1 新たな組織づくりの④に入れるということである。大事な意見だと思う。

○委員

- ・行政との協働体制の強化というところには入らないか。

○委員長

- ・難しいのは学校区単位で単会があるんだけど、学校が統廃合されて学区という概念が変わってきたらどうなるのかという論点だと思う。必ずしも行政とコミュニティの関係ではないような気がする。そうすると、4 行政との協働体制の強化ではなくて、1 新たな組織づくりの方が近いような気がする。

○委員

- ・今は小学校単位でコミュニティがあるが、将来小学校区ではなくて中学校区くらいになるのではないかと推測している。そういう意味では新たな組織づくりというところに、先程の委員が言っていたようなことを入れておいたほうがいいのではないか。

○委員長

- ・今の議論では、大勢としては、コミュニティ再編をわざわざ取組として5としては出さずに、今の段階では2 ページは4つの取組にしておいて、5 ①学校再編や各学区の人口増減を踏まえたコミュニティの在り方検討というものを、1に④として入れ込むというかたちに委員の意見がまとまっているかと思う。事務局としてはどう考えるか。

○事務局

- ・日立市のコミュニティ組織は小学校区単位で活動しているということが特徴である。今回の学校再編の検討に当たっては、それに伴うコミュニティの再編の検討は避けては通れない。そのため、将来を見据えたときには、①及び③はこのまま残したいと考えている。そのうえで施策の方向性として、コミュニティ再編というように特出しをしているが、これについては委員からの意見もあるので、もう少し考えるべきであったと反省している。例えば学校再編に伴う将来的な対応など、もう少し柔らかい表現にして、残せないかと考えている。

○委員長

- ・今のような事務局案が出されたがどうか。

○委員

- ・個人的にはコミュニティ再編という文言はなくていいと思う。その中で、①学校再編は将来出てくる問題なので、在り方検討は必要だと思う。もう一つとして、コミュニティの組織の中で、コミュニティ再編を出すとするれば、全体のコミュニティ組織の機能的な組織の検討くらいの項目にして、これを学校再編も含め、市報配布、防災、民生委員の管轄、そういうものも含めた連携したコミュニティ組織をもう少し模索してもいいのではないかと思う。防災や市報配布は全住民対象、その組織ごとに見直して市報配布組織や防災組織など機能的に組織の再検討、組織の見直し、学区も含めた見直しをするくらいでいいのではないか。学校再編に合わせたコミュニティの再編は無くていいと思う。

○委員長

- ・先程の委員からも、コミュニティの役割の見直しみたいなものでどうかという意見もあったが、どうか。

○委員

- ・事務局の考えがいいのではないかと思う。

○事務局

- ・事務局からは、学校再編に伴う将来的な対応と提案した。

○委員長

- ・他にはいかがか。

○副委員長

- ・日立市のコミュニティは小学校区単位ということにこだわりを持っているようであるが、私は小学校区単位であろうが中学校区単位であろうが、コミュニティ活動の在り方検討においては、内容についてこだわっているものなので、あまりそこにはこだわらなくていいのではないかと思う。

○委員

- ・今小学校区ごとのコミュニティ組織にこだわっていないという話があったが、私

もこだわりはしないが、小学校が何回かに分けて再編されるような話も聞いている。その都度、小学校がこっちに来たからとかというのではなく、そこに子どもたちは住んでいるので、別に小学校がどこであろうと構わないのではないかと聞いている。別に学校がどこに行こうが住んでいるところが当時の〇〇だったというそれだけでいい気がする。

○委員

- ・ 2 ページの 1 と 5、皆さんの意見を聞きながら何回も見てみたが、1 が新たな組織づくりで、5 がコミュニティ再編、二つの項目を見ていると混乱してしまう。一方では新しい組織を作ろうと言っていて、片一方ではコミュニティは再編するかもしれないというのがあって、では新しい組織はどうなるのか、まずはこちらが最優先なのではないか。
- ・ これを基に先程の委員が言っていたように 1 に入れるという方がいい。コミュニティ再編は避けては通れないものだと思うのでこの文言はあってもいいが、あまり大きな項立てしていくと今やるのはどっちかなとなってしてしまう。新たな組織づくりが優先であることが明確になるのかなと思う。

○委員長

- ・ 項立てとしては残さずに、1 に追加するというイメージである。

○委員

- ・ いろいろな考え方が出てきて難しいなと聞いていたが、個人的にはコミュニティの再編と学校の編成というのは、いかにここで議論しても、提言を受ける方、市長の立場で考えると、学校再編との関係はどうなっているのかというところが一番気にされると思う。そこをあまり攻めると、コミュニティのことと教育委員会のことと大きく広がってしまう。ここでも学校編成のことはしっかり考える、将来にしっかり残しておくということで、新たな組織づくりの中の一項目として残しておけばいいのではないか。その時に、コミュニティ再編という言葉は刺激が強すぎると思うので、将来の学校再編に対しても検討する、あるいは含んでいるというような考え方でいいのではないかと思う。

○委員長

- ・ 様々な意見が出たが、事務局どうか。

○事務局

- ・ 取組の構成、組み立てについては、短期、中長期的な視点で組み立てた中で、1 新たな組織づくりについてはすぐにでも着手できる内容、5 のコミュニティ再編については長期的な内容として 5 番目に持ってきた。だが、委員の皆さんから新たな組織づくりの中に追加するというのであれば、それでいいのではないか。

○委員長

- ・ 今の段階では、5 コミュニティ再編は一旦無くし、①と③は 1 新たな組織づくり

に項目として加える。②は4ページの3顔の見える関係づくりの中に新たに④として加えるという形だがいかがか。

○委員

- ・5①を新たな組織づくりに入れるのはいいが、③は無くしていいのではないか。学校再編は①にも入っているし、連携強化は学校再編にこだわらなくていいと思う。

○委員長

- ・学校再編は重なっているから、無くしてもいいのではないかという意見であるが、他に意見はあるか。私としてはむしろ③は保険なのかと思っていた。学校再編されても新たに一つになった学区の中に2つのコミュニティが存在することもあり得る。その場合、その2つのコミュニティが連携していくこともあっていい。学区が1つになったことでコミュニティが1つになるということもあっていいかもしれないが、そうでないことも当然あり得る。③を残しておくことで今あるコミュニティの存続ということにもつながってくるように読めた。①だけでもいいのではないかという意見に対しては、事務局どうか。

○事務局

- ・学校再編という用語が、2回出てくることに抵抗があるというような意見かと思うので、①と③を含めたような表現で検討していく。

○委員長

- ・①と③はくっつけて、連携強化のような文言は残るような形で1に④として加わるということである。詳細な文言についてはお任せいただきたい。

○委員

- ・先程の委員が言っていたが、自治会・町内会の関係ではないが在り方として、今のままの自治会・町内会でいいのかというところが随分議論になっていた。新たな区割りというか、自治会・町内会と言わないかもしれないが、それに代わるようなものについて、どこかに表しておいていいのではないか。

○委員長

- ・先程2自治会・町内会との関係性が2つしかないのは少し寂しいという意見もあったので、このあたりに何か文言は考えられないか。新たなと言ってしまうと、自治会・町内会を完全に否定してしまうようなことになってしまうので、少し文言は工夫したいところである。

○委員

- ・もしかすると1の新たなコミュニティ組織の方になるのかもしれない。例えば広報紙が全世帯に回るような組織みたいな考え方である。

○委員

- ・今の意見に関連するが、この辺に2項目しかなく寂しいから何かということであ

れば、市の広報戦略課で市報の配布をどうするか、組織を見直して配布するか、今の自治会・町内会をベースにして配布するか、そういうものも含めて検討しているはずであるので、自治会・町内会との関連性で住民を対象にするような防災にしても市報配布にしても、福祉・見守りにしても、関連性を含めた項目を事務局でうまく作ってもらって、そういう情報を入れながら自治会・町内会を作るのか、自治会・町内会でやるのか、2つの自治会・町内会をベースにくっつけて市報配布組織を作るのか、そういうものを新たな組織を作ってネットワークづくりなどいろいろな方法をやっていく。

○委員長

- ・先程地域が支える福祉みたいな位置づけも是非盛り込んでほしいというような意見もあった。防災や福祉や市報など、我々の頭の中にあるイメージというのは、1ページにあった向こう三軒両隣みたいなものが残ってほしい、あってほしいということだと思うが、そういったものが③としてこの中にあるといいが、事務局どうか。

○事務局

- ・3ページ市民が求めるコミュニティ活動の取組1活動分野の選択で、下の方に興味がある活動内容というものがある。ここは冒頭で説明しなかったが、市民が関心のある、市民の求める活動は福祉が半分以上の回答があり、防災・防犯が半分近くの回答がある。こういう防災や福祉などの活動分野でつながりの維持、継続できるような小単位の組織があればいいのかと考えている。

○委員長

- ・3ページにかなり具体的に書いてある。

○副委員長

- ・今話がかかなり具体的な実行するところまで行ってしまっている。これは中間報告であり、今後煮詰めていくということを少し頭に入れて会議を進めた方がいいのではないか。

○委員長

- ・具体的な議論をしてしまうとかなり詳細な議論になってしまう。

○委員

- ・例えば今事務局から話のあった地域の関心ある活動は、調べてみてこういう形であったということである。これをきちんとした活動にするためには、どういう組織が必要なのか。そういう組織を1に入れていこうという形になっていくのではないか。

○委員

- ・具体案は後でいいとは思いますが、具体案を作る元が保証されていないといけない。その元が無くなってしまいそうなので、我々が地域と接するとき、広報紙が全

員のところに行かない、寄附が不公平、入っていても意味がないみたいな不公平感やみんながちゃんと享受できないような、そういうところがかなり地域の声として上がってくる。そこでかなり息詰まる場所があって、全体がコミュニティの会員なので、そこをどこかで考えていく項目が抜けてしまっているのではないか。具体的でなくてもいいが、そういうことについて、どこかで考えるということ担保してほしいということである。

○委員

- ・ここで不公平感の無いや、福祉、防災、防犯というような文言が自治会・町内会との関係性というところに入ってくるような形にすると厚みが出てくるというか、関係性としてはよくなっていくのではないか。

○委員

- ・1 新たな時代にふさわしいコミュニティ組織、2 市民が求めるコミュニティ活動、3 市民意識の醸成、これらが今のところバラバラになっているような気がする。それはそれなりに別々に検討したからそうなったとは思いますが、これを誰かに説明するとなると、各々の項目に関連性がないといけな。そういう意味では、2 市民が求めるコミュニティ活動の中の活動分野の選択に関連して、先程の2ページの自治会・町内会との関係性に③という形で、コミュニティと住民サービスというような項目が一つあったらいいと思う。住民サービスのこととなると、福祉や防災や防犯ということで関連性が出てくるのではないか。

○委員長

- ・かなり具体的な意見をもらった。関連性を持たせる意味でも、自治会・町内会との関係性のところに③として住民サービスに関する文言、項目を入れてはどうかということで、宇佐美委員の意見ともかなり近いと思う。つまり、ちゃんとこういう組織をやるんだということを文言として担保するということである。具体的に③としてはどうするか。住民サービスを担保できる組織の検討とかそういった形か。

○委員

- ・2 自治会・町内会の強みというのは地縁だと思う。なので、地縁を活かした情報の共有、そのあたりかと思う。この情報の共有に基づいて、防災などにも広げていけるのかと感じた。強みは自治会・町内会は地縁を活かした情報である。

○委員長

- ・具体的な文言として、地縁を活かした情報の共有というのを③として付け加えてはどうかという意見であったがいかがか。

○委員

- ・2 自治会・町内会について、我々も毎日どこかの自治会・町内会から連絡があったりするので、一つとしては地域ニーズを考慮したとかそういう言葉が頭をよぎ

った。先程と同じような形かと思う。やはり自治会・町内会のニーズ、要望みたいなものを取り入れてどういうふうに活動するかというような文言が必要かと思う。

○委員長

・地域ニーズという表現が盛り込まれてほしいという意見であった。

○委員

・自治会・町内会との関係性というところの②活動維持支援とあるが、ここに含まれる内容としては、先程副委員長からも町内会の加入者減少が背景になっているということで、コミュニティを存続していけるかどうかという話があったが、新たな組織づくりとしては交流センター運営委員会との一元化や学校再編の話があるので、数が減るかもしれないということで、どうしても地域密着型、つまり住民との接点があるというところを残していかないといけない。そうすると、組織づくりにとってますます自治会・町内会を活性化しないとうまく回っていかないと、やらされ感があると担い手が減るので、自分たちが作ったものが取り入れられるというところを考えると、活動は、自治会・町内会の人たちが自主的に作った案を、積極的に支援するようなものを、活動のところは但し書きなんかを入れたらいいのではないか。難しい言葉にはなるが創発性など、地域の人たちが考えたものを積極的に支援していく、予算を付けていくようなことが必要である。そうすると若い人たちが町内会に入ってきて、プランニングして、やってみようというように活性化していくような気がする。

○委員長

・今の話は②のところ自治会・町内会の活性化のためには、単に活動支援というわけではなくて、自治会・町内会の側から湧き上がってきたものをコミュニティとして支援することによって、もっと活性化をサポートしようという発想であった。具体的な文言にすると中々難しい、創発性などと入れてしまっているのかなというのもある。

○委員

・今のところで、先程言ったような寄附による不公平感や福祉、防災などをひっくるめた言葉というと、先程聞いていた地縁や地域のようなものとピンと来ないような気もするので、もう少し文言を考えた方がいいかもしれない。

○委員長

・私は地域ニーズだと思っていた。福祉や防災も含めて、地域ニーズをちゃんと出来る組織、そういう組織を残していこうということが③にあるといいかと思う。

○委員

・地域ニーズでいいのではないか。

○委員

- ・情報共有という言葉はぜひ入れていただきたいと思う。福祉、防災、防犯、地域ニーズに関しても、自治会・町内会とコミュニティとの情報共有というような言葉が非常に大事だと思う。

○委員長

- ・先程地縁を活かした情報の共有という文言を出してもらっているのだから、それは入れてもいいのではないかと考えている。

○委員

- ・防災や福祉などいろいろ出ているが、この自治会・町内会との関連性については、事務局に任せる。その中で、今出ていたような内容を加味して、あまり抽象的なことばかりではなく、委員長からあった地域ニーズを把握し、不公平感をなくす、享受と負担感のバランスをよくするというようなことをうまく作ってみてほしい。

○事務局

- ・ここについては、地域ニーズの共有化ということかどうか。ここはコミュニティと自治会・町内会の関係性なので、地域ニーズを地域の方と共有して、地域の課題について一緒に解決していこうというスタンスではどうか。

○委員長

- ・細かい文言は事務局に任せるとして、ニュアンスとしては今の意見で出来れば情報の共有化と地域ニーズの実現みたいな形でいけないう。文言は修正してもらって構わないので、コミュニティと自治会・町内会が情報共有していくということは大事であり、もう一つ大事なものは様々なニーズ、つまり防災や防犯などは確実に実現していくということだと思っているので、このあたりを合わせた文言を③として入れていただくということではどうか。

○事務局

- ・この部分については、委員長、副委員長の了解のもとに表現を改めさせてもらう。

○委員

- ・3ページ基本的な考え方の中で、現在の活動と市民が求める活動にズレがあるためというのが気に入らない。それから、その下の担い手不足による活動の停滞が見られると断定しているところも気に入らないところである。もう少し違う文言で、ズレがあるためという表現をズレがないようにと改めるなど検討してほしい。

○委員長

- ・文言はお任せいただいてよろしいか。今のままだとかなりネガティブな書き方になっているので、もう少しズレを無くすようにとか停滞しないようにみたいな形で少しポジティブな表現で、基本的な考え方を書かせてもらう。

○委員

- ・4ページ若い世代への参加促進というのは中々難しいことであるが、上の①②は非常に大きなものだが、次に突然ラジオ体操の普及促進と出てくる。何か細かす

ぎないかと感じてしまう、これで若者たちの参加促進が出来るのかと思ってしま
うので、もう少し大きな項目で行きたいと思う。

○委員

- ・若い人たちはどうしたら参加してくれるかということを考えれば、きっかけづく
りが必要なんだと思う。そういう文言をここに入れればいいと思う。

○委員長

- ・若い世代が参加できるきっかけづくりを行うみたいなニュアンスのものがあってもいい。ラジオ体操は日立発祥ということで、実際にアンケートなどでも、ラジオ体操に対する意見はかなりあったので、ここに活かされていると思うが、どうするか。

○委員

- ・私もラジオ体操の普及促進がここにいきなりというのは違和感があった。それよりもこのページでは、現状からの若い世代を多く取り入れるためには、現状をそのままいくら変化させても難しいはずなので、SNSなどいい言葉が書いてあるので、狭い学区内だけでいくと、非常に手狭になって厳しいと思う。発信にしても活動にしても、学区を超えた共同作業というようなことがここに入っていくと、自分たちの学区に限らず、お互いに一緒にやっっていこうかということも可能になるので、そういったことで若い人たちの参加促進が図れるのかなと思う。

○委員長

- ・一つ目として、ラジオ体操の普及促進は一旦中間報告からは抜かせていただいて、若い世代が参加するきっかけづくりみたいなものを入れるということによろしいか。
- ・もう一つが、学区を超えてという文言がコミュニティというのは学区かという議論に戻ってしまう気もするので、一旦検討はさせてもらうが、趣旨としては内だけでなく外に向かってというか、連携してというような広くというイメージである。

○委員

- ・コミュニティそのものは、決められた地域の方々というイメージだが、これからのコミュニティはそれに限らず、不特定多数を相手にしたコミュニティも入ってくると思う、既に入ってきている。若い人たち世代はこの指とまれで、けっこういろいろなことをやっている。そういったものもイメージしてはいかがかと考えた。それが学区を超えたという、言葉は少し考えていただきたい。

○委員長

- ・つまり不特定多数のような、地縁血縁に留まらないというそういったことである。そういったニュアンスのものをこちらに盛り込むようにしていく。

○委員

- ・そういうように考えると向こう三軒両隣というサブタイトルは考え直した方がいいのではないかと思う。

○委員

- ・それは正直に言って逆だと思う。向こう三軒両隣があったうえでの、若い世代の活動、これじゃないと元も子もないので、向こう三軒両隣は必要だと思う。

○委員

- ・若い世代の参加促進というのは、コミュニティ活動をしている人から見た視点である。若い世代との協働という形で、若い世代と一緒に防災もやろう、福祉もやろうというふうに協働という形の方がいいのかなと思う。

○委員長

- ・では若い世代への参加促進ではなくて、若い世代との協働に言い換えてしまうということではよろしいか。

○委員

- ・たしかに参加、そこに行くというよりは、若い人たちは若い人たちで結構何かをしたいとか思っている人はたくさんいるので、実際にイベントを行ったり、そこに参加したりというのは今でもたくさん行われていることなので、そういう部分を一緒に協力していったりというような関係性が出来ると、若い世代にとっても高齢者やコミュニティを支えてもらっている人たちにとってもいいのかなと思う。

○委員長

- ・今の委員の意見も踏まえて、若い世代との協働のような文言に修正したいと思う。

○委員

- ・文言について、協働という言葉が出ているが、他に共創という言葉、共に創るという言葉があるので、そちらの方がいいかなと思う。前の方で創出というのが出ているので、それを受けて共創というのがしっくりくるかなと思う。

○委員長

- ・若い世代との共創、共に創るというもの、そちらにしたいと思う。そろそろ時間なので、最後に私から、中間報告に盛り込んでほしいというわけではなくて、ぜひ次回以降に皆さんに議論いただきたいところであるが、中間報告のまとめをしていく中で、1ページ目はすごいなと感じている。昭和46年、今から49年前にはコミュニティは始まっているので、私が生まれる前からである。この50年の重みというのはゼロにするべきではないと思っている。
- ・どうしても今日の議論もそうだが、今までの議論は現状はこんな課題があるなど、ネガティブな部分の議論が多かった気がする。今まで50年やってきたもので、ここは残したいとか、ここはいいというポジティブな部分についても、次回以降はここだけは残していきたいと思いますという意見も是非もらいたい。今まで踏まえつつ、もちろん課題もあるので課題も捉えつつ、在り方を検討していければと考

えている。次回以降もいろいろな意見をお願いしたい。

(4) その他

次回の日程等について

次回検討委員会は、12月25日（金）午前10時から、503・504号会議室で行うことが確認された。

以 上